最近の預金金利は環境科学や食品添加物の世界？

普通預金金利は、いつの間にか0.001％の桁まで低下している。100万円を１年間預けても、10円玉が何個になるかという利子である。

新聞の経済欄を読むのに、ふつう百分率を知っていれば事足りる。が、こんなに少数点以下が増えてくると、経済記者も記事を書くのがめんどうだろう。それならば、環境科学や食品添加物の記事と同じように、ppmを導入すればよい。１％が100分の１なのに対して、１ppm (1 part per billion) は100万分の１である。いわく、「今月の預金金利は10 ppmです！」。

もしこれ以上預金金利が下がったら、ppb（parts per billion、「米」10億分の１）を導入することになる。しかし、そういう利率は、環境汚染物質や食品添加物の割合よりも低く、とても利子とはいえない。

環境省の「そらまめ君ホームページ」を覗くと、日本全国の大気汚染状況が24時間掲載されている。ちなみに、2002年6月24日午前10時現在（天候雨）、中・四国全域において、一酸化炭素（CO）の濃度は、最低ランク、０から5.9 ppmに収まっている。

一方、厚生労働省の「輸入食品監視業務ホームページ」で６月分（2002年）を見ると、輸入食品の廃棄、積み戻し、あるいは食用外への転用を指示された事例が掲載されている。いろいろな例がある中で、中華人民共和国から輸入されたほうれん草に、クロルピリホス0.03-0.20 ppmが検出されたとある。クロルピリホスは、塩素原子を含む殺虫剤、殺ダニ剤である。

このように書いて、ppmに悪い印象を与えてしまったことに気がつく。しかし、ppmは割合を示す単位にすぎないので、ビタミンやホルモン、ミネラルのような有益な物質にも適用できる。たとえば、お馴染みのイチゴは、800 ppm（0.08%）のビタミンC（L-アスコルビン酸）、0.2 ppmのビタミンB1（チアミン）、0.3 ppmのビタミンB2（リボフラビン）、4 ppmのビタミンE（トコフェロール）、170 ppmのカルシウム、4 ppmの鉄分を含む。

余談：クロルピリホスは、シロアリ駆除剤でもあり、シックハウスの原因物質なので、建材での使用が禁止された。（2002/5/7衆議院可決、成立）